

一般社団法人 福山青年会議所

2024 年度 理事長所信

理事長予定者

柿原 圭介

We Can Change ～希望の連鎖を生み出そう～

はじめに

2020年に端を発したパンデミックは、平和な世の中では考えもしないような思案を人類へともたしました。アフターコロナの世界はどのようなものなのだろうか、私たちの生活は変わらずにいられるのだろうか、と。世界中が未来に不安を持つ中、人類は我慢とイノベーションを繰り返し、ようやく再出発に至りました。青年会議所においても、パンデミック以前に行われていた会議、大会がフルボリュームで開催されることが多くなりました。しかし、一見同じでも何かが変わった、そのように感じている方は多いのではないのでしょうか。以前は見ないようにしていた問題の顕在化、そして価値観の変化、人類はかつてないほどの変容の渦中に立っているのです。

福山市においても、生産年齢人口の減少、過疎地域の増加、税収の減少などの問題が深刻さを増しています。加えて、需要と供給のバランスが崩れたことによる物価高の問題も新たに生じています。そのような中でも行政は「人間環境都市」という基本的な理念のもと、わがまちを「新たな分散型社会のもとで、市民一人ひとりの安心な暮らしと希望が実現する都市」とすることを謳っています。福山市が近隣地域における「極」となることによって個性豊かで活力ある地域となることを目指しているのです。福山青年会議所も「明るい豊かな社会」を目指し、その展望を描き、リーダーとして先頭に立ち地域をより良くしていく存在でなければなりません。幸いにも私たち福山青年会議所メンバーにはチャンスがあります。行政や地域の方々、そして社会の最前線にいる仲間と意見をぶつけ合い、私たちが解決すべき問題は何かを探求することができるのです。足元を見つめ、同時に遙か未来を見据えながら、自身を成長の場におき、実践者として地域の発展に寄与していくことが求められています。

私たちが目指す「明るい豊かな社会」とは、持続的であり人々が個性を活かし幸福を享受できる社会です。そして、そのような社会に至るためには、言うまでもなく市民の力が欠かせません。住み暮らす人々の個性を活かした新たな挑戦や行動が絶えない地域こそが持続的であり、憂うことなく幸せに生活ができる地域であるといえるのです。では、その状態に至るために具体的に必要なものは何なのか、これは現代人の幸福を示すウェルビーイングという概念の研究によって示されています。この研究によると、大きな要素として、未来への希望、というものが述べられています。未来への希望を持つことこそが人々の活力を、そして挑戦や行動を生み出し続けるのです。

それでは、未来への希望はどのように生まれるのでしょうか。私は「変われる覚悟」を持ったひと、組織からこそ未来への希望は生じるものであると考えます。過去、人類は歴史の転換点において価値観を大きく変えてきました。そして現在、AI等の台頭により、人々の価値観は大きく変わってきています。私たちは変わりゆく価値観への適応ができているのでしょうか。私は、青年経済人こそが率先して適応していかなければならないと考えています。そうでなければ、どのような指標を持って人々に未来への希望をもたらしことができるかが分からないからです。しかし、勘違いしてはいけないことは、変化をする、しない、そのどちらかに正解があるというわけではないということです。本当に大切なことは過去の伝統を学び、未来を見据え、今、真に求められている在り方はどのようなものなのかを学ぶこと、そして必要であれば勇気を持って、考え方、手法、組織の在り方を変えられることです。時代に応じてその在り方を適応させる。このような「変われる覚悟」をもった存在は間違いなく人々に希望をもたらし、私たちが住むまちをより素晴らしいものへと変えていくのです。

まちづくりを志す人々が連携を行い新たなまちづくりの形を創り出すこと、青少年が未来に向かって福山というまちと向き合い、個性的な魅力を発掘すること、新たな可能性にチャレンジするため多様性を高めること。多くのアプローチがあるでしょう。私たちがこれから、まちの未来を想い、迷うことなく進んでいけるリーダーとなるべく学び、広げ、そして実践し続けてまいりましょう。

未来への希望にあふれるまち、福山

VUCAの時代といわれている現在、私たちはどのような道を選択し、進んでいくべきでしょうか。これまでの常識や手法は通用しない、または効果が弱くなっていることは明白であり、新しい発想による挑戦が求められています。福山青年会議所においても例外ではなく、近隣の地域との連携を活かし過去にはなかった新たな魅力の創出に挑戦してきました。もちろん、その連携の可能性は近隣に留まるだけのものではありません。近年、遠隔地を結ぶITツールが顕著に進化しました。そのようなイノベーションはこれまでであれば出会うことのできなかつたひとや仕組みとの出会いを容易にしたのです。人口動態の変容による影響は大きく、このような傾向は今のところ留まることはないと予想できます。

今、福山市には多くのまちづくりを志す人々、組織が存在します。そして、それぞれが、それぞれの想いを抱き運動に取り組んでいます。しかし、彼等が持つ個別の強みを私たちは理解できておりません。私はここに違和感と勿体なさを感じています。今後訪れる予測不可能な時代、これまで以上のインパクトをまちに与え、そして希望の連鎖を生み出すには、お互いの強みを融和し手を携えることが必要なのです。個性あふれるそれぞれのまちへの想いがつなぎ合わされたネットワークによって、新たなまちのにぎわい、新たなまちづくりを生み出してまいりましょう。そしてこれは、紛れもなく未来を見据えて変われる覚悟を持つ組織でなければできないことだと考えております。その覚悟は希望に変わり、ひとからひとへと伝播をしていきます。（一社）福山青年会議所は今後大きな挑戦を視野に入れています。私たちの運動で、福山というまちの魅力を最大限に掘り起こし、そして多くの来訪者を受け入れる土壌と機運を高めなければなりません。その先にある「明るい豊かな社会」へと進んで行くことこそ私たちの使命なのです。

未来を想い挑戦する人財育成

あなたは変化を恐れずに進んで行けますか。多くの人間は安定した環境に安心し、自分の進みゆく道には曲がり道や分かれ道がないことを求めます。これは心理学の観点からみ

ても当然のことです。しかし、時代が求める進むべき道は決して平坦なものだけではないことも、また確かなことです。従って、人々の先頭には、勇気と信念を携え先が見えない道であっても恐れず選び、そして新たな道を示すことができるリーダーが立つべきです。

会社で学生と面接をする際、以前と大きく変わったことがあります。旅行をはじめとする外に向けた経験をしたことがある若者が著しく減っているのです。パンデミックの弊害は確実に若者を浸食しており、学びの多様性は現実には失われているのです。今こそ、私たちが動くべきなのです。外の世界を知る機会が減少している青少年が、次代のリーダーとなれるよう可能性を引き出していかなければなりません。そのためには、まず自分たちが住むまちのプロフェッショナルになってもらうことが必要だと考えます。福山と外の違いを知り、魅力を掘り起こし、時代に沿った方法で自分たちのまちを外の世界へと発信することで未来への希望を持ってもらう、何より未知なる何かに挑戦する精神性を兼ね揃えてもらうことができるのです。この挑戦を通じて、変化を恐れず道を示すことができる次代のリーダーとしてふさわしい存在となることでしょう。

私は青少年事業を考えると、我が子を思い浮かべます。この子どもたちが臆することなく何事にも挑戦でき、そして行動ができるのなら、どれほど未来は明るいだろうかと考えます。そしてその背中を押せるのは私たちです。彼等が未来を背負わず誰が背負う、私は強くそう思います。未来のための人財育成は、学校だけではなく、地域社会で取り組むべきであるはずで、どのような状況や時代にもまっすぐに向き合い変わることを恐れない、まちに、未来に希望をもたらす人財を育成し続けてまいりましょう。

希望をもたらす仲間とともに

まちが変われるようになるには何が必要なのでしょう。求められるものは沢山あります。それはひとであり、環境であり、物質的な何かであるかもしれません。そのような中で、私たち青年会議所ができる最もシンプルなことは、同じ志を持ち、かつ、幅広い視点を持つ仲間を増やしていくことだと考えます。現在、福山青年会議所は内発的動機を重視し、理念共感型拡大に挑戦しています。この考え方をぶれない軸として持ち、未来をともに過ごす仲間を増やしてまいりましょう。

私たちはこれまでも多くの仲間を迎え青年経済人としてともに成長をし、まちをより良くしようと行動をしてきました。何をどのような手法で学ぶべきかを時代に合わせてアップデートしてきたのです。昨今、ビジネスシーンにおいても求められている柔軟性は、私たちのような組織においても必要不可欠なものであることは厳然たる事実です。過去を知り、今を知り、変わるべきなのか、そうではないのか、その判断をすることができる存在こそが、まちをより良くするために、今後求められてきます。私たちは臆することなく、変われる覚悟を持ってひとと組織の成長に臨まなければならないのです。

新しい挑戦をしたい時にともに歩んでくれる仲間がいる、こんなにも素晴らしいことはありません。まちに希望をもたらすため、柔軟に変化ができる組織なのかを、ともに考え、ともに学べる、そのような仲間を一人でも多く増やすべく精進してまいりましょう。

希望をもたらす組織へ

希望をもたらす存在とはどのようなものなのでしょうか。私は個人であろうと、組織であろうとその根本に変わりはないと考えております。時代の流れに適応し、まちとの関係、そして考え方を柔軟に変える事ができる組織こそが、ポジティブな存在感を示し、希望をもたらすことができる存在であると考えます。そのような組織に至るためには組織内での心

理的安全性を高め、メンバー同士が、馴れ合いでもなく、敵対するでもなく、ともに高めあうことができる存在になることが必要です。間違っていることには忌憚なく意見を言える、素晴らしいことは素直に労い、目的達成に向けて協力を惜しまない、そのようなシンプルな関係こそが目指すべき姿です。見えない壁を恐れることがあってはなりません。そして、未来を見据えた組織になるには、過去に多くの挑戦をしてこられた諸先輩方の姿に学び、堅固な協力関係を築くことが必要不可欠なのです。

また、希望をもたらす組織であるためには、メンバーがプライベートそして仕事においても尊敬される存在でなければいけません。青年会議所だけではダメなのです。その全てを成り立たせることこそが人々に希望をもたらすことができる青年経済人であると言える状態なのです。あらゆる面において研鑽を重ねることで、一つの視点にこだわらず成長ができ、そしてまちに希望をもたらすことができる組織となることでしょう。

“青年会議所に所属しているから、素晴らしい” そう思っていないですか。そうではありません。“素晴らしい状態になるべく挑戦をしている組織”が青年会議所なのです。その因果関係を違えることなく、常に心の内に誇りを持てる組織を目指してまいりましょう。

希望を拡げる組織へ

過去、（一社）福山青年会議所が精力的に出向者を輩出し、福山だけに留まらないコミットをしてきたことは結果として素晴らしいものを生み出してきています。それはグローバルなネットワーク構築に対して力を入れているイメージかもしれませんが、それは私たちがローカルの事業だけでは留まらない挑戦をしているイメージかもしれません。加えて、外の地域での経験、手法を持って帰ることは組織に良い影響を与えています。自分たちだけで考え、拡がりを持たない思考はやがて袋小路に行きつきます。私たちは全国、そして世界にネットワークを持つ組織だからこそ新しい発想や挑戦をする機会を得ることができるのです。この素晴らしい機会を逸することなく、組織の成長に活かせる環境を構築し続けてまいりましょう。

また私たちはそのような知見をもとに生み出してきた事業や挑戦を懸命な努力によってまちの人々に共有してきました。単純な広報が目的ではありません。その真の目的はまちに、人々に、我々の想いを伝え、心を燃やすきっかけとなる種火を提供することです。どれだけ素晴らしい挑戦をしたとしても、内輪のものだけでは私たちの目的は達成できません。どのような取り組みであれ、私たちメンバーだけが希望あふれる未来に至るものでは意味がないのです。私たちがまちの人々に希望をもたらし、その人々がまた起点となり希望が広がっていくことこそが本懐なのです。そのためには福山青年会議所の活動、運動の全てを余すことなく拡散していく必要があります。私たちは単なる情報を共有する組織ではなく、希望を拡げる組織であること、その原則を胸に尽力してまいりましょう。

揺るぐことのない(一社)福山青年会議所

私たちが安心して(一社)福山青年会議所という名を使い運動ができるのはなぜでしょうか。それは私たち自身が組織に対して誇りを持っているからに他なりません。そしてその誇りはどこから来るものでしょうか。言うまでもなく過去培ってきた信用であり、積み上げてきた伝統がもとになっております。それをこの先の未来へも続けていくのは並大抵のことではありません。過去を理解し、そして先を見据えることができなければ、誇りを持てる組織であり続けることはできません。

メンバーが一同に集う、例会、そして諸会議、この根幹部分が揺らぐことがあれば同時に私たちの運動も揺らぐことになります。本年、まちに、ひとに希望をもたらすために変

われる組織となることを目指しています。各委員会がそれぞれに英知を結集し、そしてチームでこの目標に向かって邁進します。その全てを支える根幹部分がぶれることがあってはいけません。しかし、だからこそメンバーが自信を持って進んでいくためには、率先して必要に応じて適切な姿、仕組みへと変えることができる状態になることが重要です。私は今の例会が好きです。だけど、得意ではないひともしいるかもしれません。単独の視点で決めるものではあってはならないのです。この時代に、そして未来にとってどのような形が適切なのかを模索していくことこそが肝要なのです。多くのメンバーが参加をしやすい例会を目指すことが正解かもしれませんし、また外部の多くの人々に参加してもらうことも正解かもしれません。私たちは本音を語り合いそして、過去歴史を紡いでいた方々とも意見をぶつけ合いながらも、組織の未来を思って進んでいくのです。そのような強い想いを胸に新たな歴史の1ページを創造してまいりましょう。

地域の未来を想う

近隣地域間での連携は、単独の組織では成しえない可能性の広がり、そして多様性あふれる魅力を掘り起こすことができます。私たちが以前より参画しているロマンチック街道313事業においては、倉吉から福山までの国道313号線上にある5つの青年会議所が、それぞれの魅力を持ちより事業を構築してまいりました。ドイツに存在するロマンチック街道から構想されたこの美しい国道を活かす事業を通し、多くの魅力を近隣地域へと発信してまいりました。

この長く続く連携の未来を見据え、この連携をどう活かすのか、新しい形に挑戦するか。私たちは今一度時代の変化と向き合い、思案を巡らせながら邁進していく時だと考えております。地域に希望をもたらすために、私たちができること、発信できることを追及し、まちの人々に伝播してまいりましょう。

世界の日本を、世界の福山を

2025年、福山の地で開催される世界バラ会議に向け、行政、そして市民、もちろん私たちも準備を進めています。福山が持つばらの力によって、この素晴らしい世界的会議は誘致に至りました。もちろん関係各所の計り知れない努力の賜物です。私たちは、世界バラ会議を起点にさらにまちの魅力を世界に発信することができるのです。そして、その勢いを留めることがあってはならず、私たちは次なる挑戦への意識を常に持っていなければならないのです。（一社）福山青年会議所の強みは、国際へのコミット力、そして世界中に広がるネットワークです。この強みを次代へつなぎ続けることで、世界の中で福山の存在感を発揮し続けることが可能なのです。2023年、私たちは大会招致検討会議を立ち上げ次なる大会をまちのために、組織のために、誘致するかを検討しました。その歩みは決して止めていいものではありません。福山というまちが、世界中の誰もが魅力に感じ、来てみたい、住んでみたいと思うまちになるためには、何が必要なのか、そして何をしていくべきなのかを考え続けていく必要があります。その歩みは、決して無駄になることなく、まちに、人々に未来への希望をもたらすものになるでしょう。

おわりに

18世紀の後半、イギリスで起きた産業革命を皮切りに世界は資本主義経済の道を歩んできました。そして現在、再度のパラダイムシフトが起きようとしています。株主資本主義から包括的資本主義の時代が変わろうとしているのです。自分のことだけでなく、他人

のことだけでなく、取り巻く環境、あらゆる関係者に配慮し、全てが持続的であることが求められるものです。

近年の青年会議所の運動においても、まず持続的なものであるかどうかを考慮されるようになってきました。人口の変遷とともにメンバーの数も減少してきており、同じやり方だけでは通用しなくなっているからです。私たちが今、動かなければそのしわ寄せは子の世代に向かい、そしてまちの衰退につながります。それだけは絶対に避けなければなりません。私たち一人ひとりがこの事実に向き合わなければならない時代なのです。

必要なのは、これまでの安寧とした環境を見つめ直し、この時代にふさわしいものなのかどうかを判断できること、そして必要であれば変われる覚悟です。この覚悟を持っている（一社）福山青年会議所、格好良くはないでしょうか。このような組織こそが、まちに希望をもたらし、「明るく豊かな社会」へと導いていける存在であることを確信しております。

わたしが組織に希望を上げ
組織がまちのひとに希望を上げ
まちのひとがまちの未来に希望を抱き
子どもたちが希望を抱いて未来を創造する

そんな地域を願ってやみません。
そして、これこそが私たちでなければ創ることができない未来であると信じております。
激動の時代を生き抜く柔軟な思考を携え、先頭に立って進んでまいりましょう。

他の誰でもない「あなた」自身が変われる覚悟を持って。希望の連鎖を生み出すために。